

令和7年度 第6回浄水地域会議 会議録

■ 日 時 令和7年10月8日（水） 午後7時 ～ 8時

■ 場 所 浄水交流館 大会議室

■ 出席者

＜委 員＞	内迫 貴光	勝野 房則	加藤 耕助	成瀬 博文
	桑原 正明	佐竹 修	土田 洋	野畑 安浩

＜事務局＞ 杉浦 智文（地域交流課 課長） 吉村 直樹（地域交流課 担当長）
渡邊 洋一（地域交流課 主任主査）

■ 内 容 「地域活動やボランティア活動の活性化に向けた今後の進め方について」

- ・浄水中ボランティア部との連携事例の報告
- ・地域活動の現状と今後の展開に関する意見交換

■ 議事内容（要約）

- ・担い手不足が深刻な自治区活動として、環境美化、防災防犯行事、祭礼行事等が挙げられる。
- ・防災分野では、災害時の避難拠点が自治区（若草町など）をまたいで位置しているため、自治区を超えた連携体制の必要性を感じている。
- ・マンション居住者は管理費で課題解決しており、地域活動への関心も薄い。
- ・地域貢献に対するインセンティブ（ポイントや商品券）の仕組みが必要ではないか（例：タイミー）
- ・お祭りでは、中学生がブース企画、司会、受付などの運営に積極的に携わっている。
- ・スポーツクラブ経由でダンスクラブが参加し、イベントが盛り上がった。今後はもっと気軽に呼べる仕組みがあるとよい。
- ・高校（大谷、豊田）が近くにあるので学生参加の広がりには余地はありそうだが、相談や周知の仕方は場当たり的である。窓口やハブになってくれる調整役の方がどこにいるのか。
- ・中学生ボランティアへの依頼は学校経由で行っているが、地域部活動への移行により、窓口が不明瞭になることが懸念される。今後も従来通りの依頼ができるか不安である。連携体制について改めて確認する必要がある。
- ・ボランティア部の地域移行により学校と部活の関係性が希薄化し、これまでの成績評価に有利に働くという動機付けが今後は弱まるのではないかと。地域活動への参画にどのような動機や価値があるのかが問われている。

■ 今後の予定

令和7年度第8回浄水地域会議

令和7年12月10日（水）午後7時～ 浄水交流館大会議室

※令和7年11月12日に予定していた第7回は休会